

インターバンクの声（2017年6月1日）

5月最終日の海外市場は、ユーロがロンドン市場の朝からニューヨーク市場にかけて徐々に1.12ドル台半ばまで買われたのに対し、ドル円はニューヨーク市場の朝方まで110円台後半での小動きが続いた。ドル円は、このまま終盤まで波乱なくこう着状態が続くかと思われたが、シカゴ購買部協会景気指数と米中古住宅販売仮契約が市場予想を下回ったことで、5/18以来2週間ぶりに110円50銭割れまで円買いが進んだ。

両指標ともそれほど注目度の高い経済指標ではないが、シカゴ購買部協会の数字は4月の58.3から55.2までの下げ幅が大きく、中古住宅仮契約もプラス予想が前月に続いて2ヵ月連続のマイナスになったとあっては反応せざるを得なかった。

指標発表とほぼ同じ時間帯に米株価と原油価格も下落が進んでいたため110円50銭割れから110円に向かって円買いがさらに進みそうだった。

ここでシカゴ購買部協会の数字が55.2から59.4への訂正情報が入る。円買いが止まって指標前の水準近くまで値を戻すが動きの少ない状態が続いている。今晚のADP雇用統計と週末の雇用統計待ちになりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。